

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. 豊かな人間性（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
3. 地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成と授業の充実を図る。

- ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
 - イ 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。
 - ウ 観点別評価を有効に運用し、生徒の主体的な「学び」へつながる授業の改善と充実を図る。
 - エ 専門コースの授業内容の点検改善を図る。
- ※授業アンケート（2回）の学校平均3.24（R1:3.17、R2:3.23、R3:3.28）をめざす。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ

(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

- ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。
- イ 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
- ウ ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。

(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

- ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。
- イ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒支援を行い、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。

(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

- ア 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合80%以上（R1:76.2%、R2:76.7%、R3:83.1%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合65%以上（R1:59.4%、R2:60.0%、R3:61.4%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合75%以上（R1:69.4%、R2:73.5%、R3:70.8%）をめざす。

3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。

※進路決定者を97%以上（R1:96.0%、R2:94.5%、R3:95.1%）に増加させる。

4 地域と連携した魅力のある学校づくり

(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

- ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- イ PTAやNPO等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。

※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合80%以上（R1:70.6%、R2:81.6%、R3:83.6%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。	(1) 教員の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり①から④に組織的に取り組む ①授業改善 年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する ※授業アンケートの実施とその分析及び課題解決 ②校内教職員研修の充実 ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 ③専門コースの充実 ・外部機関と連携した体験学習やグループワークの工夫 ※専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善 ④働き方改革の促進 ※授業のICT活用とともに、ICTを活用した校務の効率化を図る。	(1) ①授業アンケートによる肯定的評価の向上[2回平均84.5%] ・学校教育自己診断「先生は、他の先生の授業を見学に来る」生徒の割合今年度以上[52.8%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の割合72%以上[69.6%] ②校内研修の実施回数8回以上 [10回実施] ③学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の割合今年度以上[72.1%] ④ICT活用率の向上 学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」[87.1%] ・学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」(教員)割合73%以上[71.1%]	
2 知・徳・豊かな人間性をはぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成させる	(1) 規範意識の醸成 ①あいさつの励行 ②個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 ※毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施。 ※遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。 (2) 教育相談体制の充実 ※隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。 ※SCを活用するなど、教員の教育相談能力の向上を図る。 (3) あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。	(1) ①学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合の向上 [83.1%] ②生徒の年間遅刻総数の減少 [3640] (2) 学校教育自己診断における「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合の向上[61.4%] (3) 学校教育自己診断で「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合の向上[75.9%]	
3 自己実現の達成を図る	(1) 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実	(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成 ①効果的な進路関係行事の実施計画 ※進路体験行事、懐風館セミナー(大学等の出前講義)等の実施 ②補習や進学講習などの機会を充実させる ※教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める	(1) ①学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の割合の向上。[82.5%] ②学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上[27.9%]	
4 地域と連携した魅力のある学校づくり	(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 (2) 地域と連携した取組みの推進	(1) 学校の様々な取組みを、中学生、保護者、中学校の教員に理解してもらう ※中学校訪問や学校説明会、体験入学を充実させる ※中・高の教員間の交流を推進する ※学校HPを通じた情報発信 (2) 地域と連携した外部講師の活用や福祉ボランティア等の生徒が地域に出る体験活動を推進する	(1) 中学校訪問回数や説明会等への参加者数を増やす。[参加者数280名] ※教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施する。 ※校長ブログや部活動ブログ等を通じて日常的な学校の様子を発信する。 (2) 外部講師を招いての授業や地域清掃等の地域と連携した体験活動を実施する。	